

はじめに 教え上手は、学ばせ上手！

この本で紹介するのは、本人に「学ばせる」「気づかせる」「教え方」です。

一般的に「教える」というと、答えや正しいやり方を教える側がもっていて、それを伝えるといったイメージがあります。特に子供に対する教育では、そうですね。ただこの本は、ある程度「おとな」を対象にした教育、特に20代、30代の若者を中心にした教育に焦点をあてています。

おとなを相手に教える場合、子供を相手にするときとは、違った考え方ややり方が求められます。ところが、私たちは「おとなをどうやって教えたらいいいのか？」について体系的に学んだことが、ほとんどありません。どうしても、今まで受けてきた学校教育や自分の上司のやり方から今の自分の教え方がある、という方も多いのではないのでしょうか？

この本では、**おとなを相手に「教え上手になる」ために必要な考え方ややり方を紹介していきましょう。**

まず、本書では「教える」ことを、本人が「上手に学べるよう手助けすること」と、定義しています。教える側は、相手が「上手に学ぶ力」を身につけられるよう支援するのです。

では、何故、「上手に学ぶ力」が必要なのでしょう？ それは、その方が相手にとって役に立つからです。一昔前のように、教える側が正しいやり方や答えを握っていて、それを伝えるという時代ではなくなってきました。

教える側も、何が正解で何が間違っているのかわからなくなってきています。正直「これでいいのだろうか？」「自分も。。。こうだ。。。って言い切れない」という不安を抱えたまま、人に教えている方も多いのではないのでしょうか？ 世の中がこれからどう変わっていくかも予測が難しい状況です。環境変化がおきる中で、変化に対応し変化から学ぶ力が、更に求めら

れてきます。例えば、こんな変化が起こったとき…

- ・部下や後輩をもったり、プロジェクトを任せられたりと、役割が急に変わったとき
- ・突然の異動や出向により全く新しい環境で仕事をしなければいけなくなったとき
- ・合併や業務提携により異文化をもつ人達と一緒に仕事をしなければならなくなったとき
- ・会社を辞めて、次の会社に移るときあるいは自分で事業を起こすとき
- ・大きな失敗や挫折に直面しているとき
- ・子供が生まれ家族が増えたとき
- ・地域活動など今まで付き合ってきた人達と違う種類の人達と付き合いようになったとき

そんなときに求められるのが「学ぶ力」です。では、「学ぶ力」とは何なのでしょつか？

それは、自分の経験、周囲の人々、先人の知恵から、何かを得て自分の糧としていく力です。

私たち教える側の目標は、変化に対応し学んでいける人材の育成です。自ら学び行動して

いく力がないと、困るのは学習者本人です。だからこそ、教える側に求められるのは、本人が上手に学んでいく力を身につけさせることなのです。

教える側の目標は「自ら学び成長してくれる人材の育成」です。**教えなくても、自分で考えて行動してくれる人を育てるということです。**そうすれば、楽になりますよね。いちいち教えなくても、自分から考えて行動してくれる。最終的には、そんな人を育てるのが、私たちの目標です。

これから「学び上手」な人を育てる「教え上手」になるための方法論を紹介していきます。

